

研究者の横顔			
フリガナ	スエナガ ミツクニ		
お名前	末永 光邦	助成金額	50 万円
ご所属	東京科学大学 大学院医歯学総合研究科臨床腫瘍学分野		
研究テーマ	がんサバイバーにおける倦怠感に対する運動の有用性を検討する観察研究		
1：研究者になろうとしたきっかけ			
<p>腫瘍内科医としてがん治療に携わる中で、通常の薬物療法だけでは難しい症状や、生活上の困難に直面する患者さんを数多く経験してきました。とりわけ、治療中・治療後に長期間続く「がん関連疲労（CRF）」に悩む姿を目の当たりにし、この問題を臨床研究で明らかにしたいという思いが芽生えました。日々の診療で生まれる疑問を研究につなげることこそ、患者さんの生活の質を本質的に向上させる道であると考え、この研究に取り組む大きなきっかけとなりました。</p>			
2：助成研究の内容紹介			
<p>本研究では、がん治療中・治療後の大腸がんサバイバーを対象に、身体活動量とCRF、ならびに生活の質（QOL）の関係を前向きに評価するデザインで実施しています。観察期間中、身体活動を体系的に評価できる質問票と、疲労スケールおよびQOL尺度を組み合わせ、ACSMガイドラインで推奨される運動量との関連も含めて、日常的な身体活動が疲労やQOLにどの程度影響するかを検討します。当院の腫瘍内科とがんリハビリテーション部門が協力して実施する、臨床現場に根差した実践的な研究です。</p>			
3：2の将来に繋がる結果予想・目標			
<p>がん治療中の患者が「どれくらいの身体活動を維持すればよいのか」という問いは、これまで十分に科学的根拠がありません。本研究の結果から、CRFの悪化を予防し、治療中・治療後のQOLを維持するために「現実的で継続可能な身体活動の指標」を示せることを期待しています。将来的には、本研究を基盤として、がんサバイバーに向けた運動指導プログラムの構築や多施設共同研究へと発展させ、最終的には治療ガイドラインへの反映を目指しています。</p>			
4：全国の RFL 関係者に一言メッセージ			
<p>この度は貴重な研究助成に採択いただき、心より御礼申し上げます。がんサバイバーの「日常を取り戻す力」につながるエビデンスを届けるため、本研究を着実に進めてまいります。全国のリレー・フォー・ライフに関わる皆さまの活動は、がんと向き合う方々を支える大きな力です。その思いに応えられるよう、研究者として真摯に取り組んでまいります。</p>			